The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞岩坪健著『ウラ日本文学 ―古典文学の舞台裏―』
Author(s)	宮川, 真弥
Citation	語文. 2012, 98, p. 53-53
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69198
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

岩坪健著『ウラ日本文学―古典文学の舞台裏―』

宮　川　真　弥

『ウラ日本文学』と題された本書の意図は、「おわりに」の以下の言に明らかである。

この本では主に、日本の古典文学にまつわる裏話を紹介しました。それは、学校では教えてもらえません。といって、学校の教育方法を批判するつもりはありません。まず、文学の表側を理解することが大切です。いきなり裏側を学んでも、わけが分かりません。表舞台を知っているからこそ、裏舞台を知る楽しみがあるのです。

本書では、学校で学ぶ通史的な日本古典文学史を表側と設定して、学校では教えない日本古典文学の裏話や舞台裏が軽妙な筆致で語られる。

「第Ⅰ部　舞台裏、拝見」では、『古事記』や『今昔物語集』などを取り上げ、古典の評価の変遷を追い、「第Ⅱ部　文学と戦争」では、田辺城の戦いでの細川幽斎などを例に挙げ、戦争と文学との関わりについて述べる。「第Ⅲ部　裏事情、拝見」では、『古今和歌集』や『伊勢物語』などの著名な作品について、それぞれの裏話が語られ、「第Ⅳ部　『源氏物語』の謎」では、桜人の巻など、『源氏物語』の通行本以外の諸相を紹介する。

取り上げられる作品は古代・中世のものがその多くを占めながら、なお文学史として現代へ至る流れが感じられるのは、全体に通底する享受史への眼差しのためであろう。その目配りが古典の様々な有り様を浮かび上がらせ、現前する姿のみに囚われない相対化された視点を獲得することを可能にしている。表も裏もあるのだ、と。

その意味でも本書は、現在、日本古典文学史を学んでいる中学生・高校生や、彼らに教えている教員は勿論のこと、かつて日本古典文学史を修めた総ての人々のよき手引きとなろう。

折しも、平成24年度4月以降実施の新しい学習指導要領（中学校・国語）からは、「文学作品などの成立年代やその特徴などに触れる場合には、通史的に扱うことはしないこと」の記述が削除される。これに伴い、日本古典文学史に触れる機会も増加しよう。そうして日本古典文学史を修めた人々が、本書によってその「ウラ」を知る楽しみを得て、いよいよ古典に親しんでいくことを願ってやまない。

（新典社、二〇一一年一〇月、一二七頁、八〇〇円）

（みやがわ・しんや　本学大学院博士後期課程）